

## インターバンクの声（2017 年 1 月 10 日）

先週末の堅調な米雇用統計を受けて 3 月の米追加利上げが意識されたことから、東京市場は祝日で休場だったものの、昨日のアジア時間のドル円は 117 円 50 銭台まで円売りが進んだ。これで年明けに進んでいた中国人民元の上昇や米長期金利の低下などによる調整中心のドル円の売りも一旦終息かとも思われた。

しかし、欧州勢が参入する時間帯になると、ドルの反発に勢いが無くなり始めたことに加え、米金利の低下、株安、原油安が重なったことから再び 116 円台まで円が買い戻されてしまった。

ニューヨーク市場の昼頃には 116 円を割る場面もあり、結局は金曜日の米雇用統計発表前の水準に逆戻りしている。米 10 年債利回りの 2.3% 台への低下には多少免疫ができ始めているが、やはり株価の下落に原油安が加わるとドルを買いにくくなる。もともとニューヨーク・ダウは 2 万ドルの大台乗せが迫っており、高値警戒感から利益確定のために売りを進める投資家も多いのだろう。

さらに週の後半から始まる 2016 年 10～12 月決算の発表も控えており、無理な買い上げを抑制していることも考えられる。先週 6 日のように 115 円割れを試す動きになれば別だが、そろそろドルの買い戻しもありそうだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。